



## NAVIGATOR

渋谷ファッションウィーク ナビゲーター

### 干場義雅さんが語る

#### “MADE IN SHIBUYA”

私が学生だった頃、渋谷のセンター街には、当時の人気ファッションだった渋谷カジに身を包んだ若者がいっぱいいました。男の子たちは、肩まで伸ばした長髪、パンソンのライダーズにTシャツ、胸にはゴローズのインディアンジュエリー。ヴィンテージのリーバイスの501にレッド・ウィングのブーツ。女子高生たちは、ラルフローレンのボタダウンのシャツにチェックのスカート、ルーズソックスにティンバーランドのデッキシューズみたいな、トラッドなスタイルをしていました。老舗のセレクトショップに混じり、小さいけれどお洒落なお店が渋谷にはいっぱいあり、アメカジや渋谷カジに身を包んだ人がいっぱいいて、とにかく活気がありましたね。今の若者にとっても、渋谷は活気があり、情報が発信され、エネルギーの高さを感じられる場所に映っていると思います。

そんな渋谷だからこそ、次世代が活躍できる情報発信の場所を提供し続けることで、世界で活躍するデザイナーやクリエイターが渋谷から生まれていく。それは他の街にはない、渋谷ならではの魅力のひとつだと思いますね。

若い人はどんどん海外に行ってグローバル感覚を養い、そして、それを日本人として、アイデンティティをどう表現していくかを考えることが、日本のファッション文化のためには大切だと思いますし、次の時代の格好良さとは何なのか？サステナビリティ、グローバル、エコ、環境問題、人間的資本主義。時代のキーワードを読み解く力も必要だと思います。

新しいファッション文化を発信しつづける街、渋谷の魅力を今秋も感じて頂きたいですね。

#### 干場義雅(ほしば よしまさ)

東京都生まれ。編集長、ファッションディレクター、ブランドプロデューサー、パーソナリティなどいろいろ。「POPEYE」で読者モデル、BEAMSで販売を経験後、出版社に勤務。「MA-1」「モノ・マガジン」「エスクァイア日本版」など、数々の雑誌の編集者を経て「LEON」の創刊に参画。「モテるオヤジ」「ちよい不良(ワル)」など一たび大ブームを作る。その後「OCEANS」を創刊し、副編集長兼クリエイティブディレクターとして活躍。12年に(株)スタイルクリニックを設立。フジテレビ「にじいるジーン」、テレビ朝日「グッド! モーニング」、日本テレビ「ヒルナンデス」、テレビ東京「なないろ日和」など、テレビ番組でもおなじみ。FM TOKYOでは、ラジオ番組「SEIKO ASTRON presents World Cruise」のメインパーソナリティとして、BR.CHANELではファッションカレッジの講師を務める。バッグブランド「ベッレ モルビダ」やシューズブランド「WH(ダブルエイチ)」などブランドプロデューサーもやっている。船旅を愛する男女誌「Sette Mari(セッテ・マリー)」の編集長として、また現在は、講談社のウェブマガジン「FORZA STYLE」の編集長として活躍。著書に「世界のエリートなら誰でも知っているお洒落の本質」(PHP)、「一流に学ぶ色気と着こなし」(宝島社)、「干場義雅が教える大人カジュアル 究極の私服」(日本文芸社)がある。新聞、テレビ、雑誌、ラジオ、トークショー、イベントなど、その活動はメディアの枠を超えて多岐に及ぶ。

講談社のウェブマガジン「FORZA STYLE」 <http://forzastyle.com>